

第5学年 国語科の実践

1. 単元名 登場人物の心情の変化に着目して読み、物語のみりよくを伝え合おう「大造じいさんとガン」
(全8時間 本時8時間目)

2. 単元目標

- ◎文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。
- 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。

3. 「ひびき合う三の丸の子どもたち」にせまるために

- 研究課題「子どもが解決したい問題を持ち、友だちとひびき合いながら学習する子どもの育成」
手だて・・・子どもの願いや思いを見とった単元構想と授業づくり
高学年ブロックテーマ「仲間への理解、自立する自分」
・仲間を理解しつつ、自分の思いも大切にする姿 ・新しい価値観にふれ、自分を再構築する姿

<聴く・話すについての指導>

「聴く」については、教師の話はある程度しっかり聴いているが、その反面友だちの発言への反応が薄い傾向があった。子どもたちと話し合いの場を設定しながら、クラスの『聴くマナー』を作った。とりわけ、『反応』ということ 키워ドにあげながら、友だちの話に自分なりに反応することを大切にしてきた。ただ声を出すことが反応ではなく、うなづくことやメモすること・つぶやくこと・分からないと首をかしげることなど、聴き方の多様性を認めつつ、良い反応を取り上げていくように指導してきた。

「話す」については、学習中全員が発表する場面を意図的につくったり、話し合いの場を多く作ってきたことで、発表することへの自信が付いてきた子が多い。話すことへの自信を持ち、発言できるようになってきた子を取り上げて認めていく中で、一人また一人と不安傾向の強い子も含めて発表できるようになってきた。まだまだ、話し合いの段階になると一部の子に限定される部分もあるが、その中でもペアやグループなどの学習方法を効果的に活用しながら、話し合いの場面における話す力も高めていきたい。また、話すことへの意欲の高い子にも、区切って話すこと・結論を先に言うこと・例を挙げることなど、話し方のこつを助言している。

<これまでの関わり合い・ひびき合い>

総合的な学習で子どもたちのひびき合いの生まれる活動を実践してきた。テーマ決めや役割決め、振り返りなどをクラスでじっくり話し合いお互いの意見のずれを何度も取り上げてきた。また、国語科の「どちらを選びますか」の学習から、クラスの話し合いの際は司会を立ててきた。対話を客観的に聞き、会話を整理していく中で仲間への理解を深める姿がみられた。

このように問いを見だし、それを解決していく中で生まれた意見のずれを取り上げ、話し合っていくといった学習過程を総合、国語、学活などを中心に行ってきた。これにより、子ども同士の関わり合う力は少しずつ身に付いてきている。図や板書、問い返しから子どもたちのずれを明確にすることによって、話し合いを通して自分の思いを強めたり、考えを深めたりするひびき合いの姿を目指したい。

4. 単元と指導について

☆1 5年部の「ひびき合い」の定義について

友だちの意見を検討すること = 「ひびき合い」

と定義して研究していきたい。

子どもたちは教材を読み取り、自分の考えをノートに書き、発言してみんなで話し合う。多くの学習で行われてきた流れだと思う。この話し合う際に、学習が盛り上がらない場面があるとすると、それは意見を発言して終わってしまう場合ではないだろうか。盛り上がる場面があるとすると、子どもたちの意見にズレが生じ、そこから子どもたちが「話し合いたい!」、「深く考えたい!」という気持ちになり、一人の意見から派生するように賛成意見、反対意見、第三の意見などが生まれる場面だと思われる。

この「意見のズレ」というのは、教科や教材の特性的に自然と発生する場合もあるし、学級の雰囲気や子どもたちの特性によって発生する場合があるが、必ず出てくるものとは限らない。「ズレ」が生じるように学習を構成しても、実際に本時になったらそうはならないという経験がどなたにもきっとあるのではないだろうか。

そこで我々は、研究主任から「教師の出どころ」を今年特に意識をしたいとお話にあったように、「問い返しの発問」による教師の話し合いの交通整理によって、「意見のズレ」を意識して話し合いが進められるように学習を考えてみた。

今回我々5年部で、国語科の「大造じいさんとガン」の学習を進める上で考えた「問い返しの発問」は、

(子どもたちからこのお話の主題についての意見がいくつか出されて分類された状態で)

「これらの主題の中で一番作者の思いを表しているのはどれだろうか？」

である。

「どれが一番？」と問うことで意見のズレに注目させ、「友だちの意見をみんなで検討する」ことをさせたい。教科書を読み返しながらか、またはグループやペアで話し合いながら検討をし、その後全体でそれぞれの出されている意見のよい点、違うと思う点を出させて検討を進めていきたい。

もちろんこの手法を使うと討論のようになるかもしれない。でもそれでもよいと考える。最終的にはクラスの多数決を行ってクラスとしての意見を決めるかもしれない。でもそれでもよいと考える。なぜならば、全体の話し合いが終わった後には、もう一度一人で考える時間を設け、全体の話し合いを経て、自分は最終的にどう考えるかをまとめる時間を設けるからである。この最後に自分で判断し、自分の答えを見つけることが最も大切であり、「友だちと意見を検討すること = ひびき合い」は、子ども一人ひとりが自分の答えを出すための、自らの考えを広げたり深めたりすることを促す過程だからである。

以上のようにして、「友だちの意見を検討すること = ひびき合い」と定義して学習計画を立て、「友だちの意見を検討すること = ひびき合い」を通して、国語科のねらいへと迫りたい。

では、今回の「大造じいさんとガン」における国語科のねらいとは何か？について以下述べていく。

☆2 「大造じいさんとガン」における国語科のねらいとは何か？

「大造じいさんとガン」は、はじめはガンを卑怯な手段を使おうとしても捕まえようとしていた大造じいさんが、ガンのリーダーである残雪の自分が捕まってでも仲間を助けようとする勇気のある姿に心を打たれ、正々堂々と戦うことの素晴らしさに感銘を受けるお話である。

このお話は適所に情景が描かれ、中心人物である大造じいさんの心情がよく表れている。また、中心人物の心情の変化を見ていくと、はじめの様子、心情が変化するきっかけ、変化した後の様子がわかりやすい。心情の変化のきっかけや変化した後には物語の「主題」につながる（または暗示する）文章が含まれていることが多いが、この物語においてはそういった意味で、「主題」について捉えやすい物語となっている。

学習指導要領においては、

C 読むことのイにおいて、

イ 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること

とある。この物語は、情景が適所に書かれていて、心情を読み取ることに行動や会話、情景などを通して暗示的に読み取ることに適していると考えられる。また、

C 読むことのエにおいて、

エ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること

とある。全体像は「はじめ～な〇〇が、～によって、～になる話」という形で捉えることができるが、この物語ははじめ・中・おわりがわかりやすいので、全体像についても捉えやすく、それゆえにまた、「表現の効果」についても自分の考えを持ちやすい。「表現の効果」については、学習指導要領解説のC 読むことのエの解説において、

感動やユーモアなどを生み出す優れた叙述、暗示性の高い表現、メッセージや題材を強く意識させる表現などに着目しながら読むことが重要である。

とあり、「主題」について学習することで「表現の効果」へと迫ることができる。以上のような理由から、「主題」を通して学ぶ「表現の効果」を最も重要な学習のねらいとして定め、そこで「ひびき合い」を通して一人ひとりが自分の考えを持てるようにしていきたい。

しかしながら、いきなり「主題」について子どもたちに問うても、内容理解ができていない中で行っては、学級の子どもたち全員が「ひびき合い」をする舞台に立つことはできない。

そこで、「ひびき合い」をするための土台を大切にしたい。土台について以下さらに述べていく。

☆3 「ひびき合い」をするための土台を大切にする

誰もが話し合いに参加できてこそ、私たちが目指す「ひびき合い」なのではないかと5年部では結論に達した。また、話し合う上で共通の土台がなければ、話し合いがかみ合わず、ひびき合わないとも考えた。そこで、今回の学習においては「ひびき合い」のための土台を設定したのが次の通りである。

〈ひびき合いのための土台〉

- ① 音読活動をして内容の理解を図る。
- ② 登場人物をおさえることを通して、丸ごと読みを行う。
- ③ では、中心人物は誰なのかをおさえることを通して、人物像や心情の変化に注目する。
- ④ 心情の変化に注目することで、人物の変化の「はじめ」「中」「おわり」をおさえる
- ⑤ 「はじめ」「中」「おわり」をおさえることで、物語の「全体像」を理解する。

これらの①から⑤までが、学習指導要領のC読むことの

イ 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること

と、

エ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、

の部分になる。そして、この①から⑤を土台として、学習指導要領のC読むことのエの後半部分である、

表現の効果を考えたりすること

へと迫っていく。この「表現の効果を考えたりすること」の部分は「主題」を考えることで扱い、そしてまた、この「主題」について話し合うことで「ひびき合い」を目指す。

その際には、「問い返しの発問」を用いて、

(子どもたちからこのお話の主題についての意見がいくつか出されて分類された状態で)

「これらの主題の中で一番作者の思いを表しているのはどれだろうか？」

という一番を問う発問をすることで話し合いをする。学級の児童の実態に応じて、討論をしたり、グループで話し合ったり、あるいはクラスの考えを多数決で決めるなどの活動を通して「ひびき合い」を行い、子ども一人ひとりの考えを広げたり深めたりすることによって、最終的な自分の考えを持てるようにしていきたいと考える。

5. 単元構想 国語科 登場人物の心情の変化に着目して読み、物語のみりよくを伝え合おう（大造じいさんとガン） 全8時間 本時 8時間目

単 元 目 標	<p>◎文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。</p> <p>○人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。</p>
------------------	---

・読書環境の整備

別の椋鳩十の作品の読み聞かせ
学級文庫に椋鳩十の作品を置く

・別の作品での読む力の指導

主題の定義
情景描写から心情を読む 音読

・「～と～」が題名である物語から登場人物の関係を
読む経験

・付属 CD の朗読を
聞き、作品世界に浸
れるようにする。

・文章を音読したり朗読
したりしている。(知
識・技能) [朗読・記述]

中心人物って誰だろう？ ①

- ・ハヤブサを追い払った残雪
- ・残雪がいないと話が始まらないから
- ・心情が変化しているのは大造じいさんだから
- ・残雪の気持ちは書いてないから

・比喻や反復などの表現
の工夫に気付いてい
る。(知識・技能) [発
言・記述]

人物像や心情の変化に着目して読もう ②

- ・「再び、じゅうを下してしまいました」ってところで残雪に対する気持ちが変わったと思う。
- ・「ただの鳥に対しての気がしませんでした」ってところで残雪を認めたと思う。
- ・かわいそうとかではなくて、「強く心を打たれました」ってあるから、残雪の姿に感動しているんだと思う。
- ・仲間を助けたり、死にそうになっても頭領として堂々とする姿に、すごいなって思っているから今までとは違う。
- ・はじめは違った。

・「読むこと」において、
人物像や物語などの全
体像を具体的に想像し
たり、表現の効果を考
えたりしている。(思
考・表現・判断)

変化の前と後の大造じいさんはどんな人？③

前

- ・「いまいまく思っていました。」とあるから、敵なんだと思う。
- ・ガンが捕れないとおじいさんたちは生活できなくなっちゃう。「残雪が来てから一羽も捕れなくなった」んだから、恨んでいる。
- ・「今年こそ」「かねてから」ってあるから、ずっと前から恨み続けている敵だと思う。
- ・「たかが鳥」ってあるってことは、おじいさんはまだ自分に勝ち目があると思ってる。ただの動物って感じで、馬鹿にしている
- ・自分の腕の方が上。「感嘆の声」は、馬鹿にしたから、驚いたんだと思う。

後

- ・大造じいさんにとって残雪は、30年以上経っても忘れられない存在になった。残雪は思っていないけど。
- ・「おれたち」って言っている残雪はライバルって言っても、悪いライバルじゃなくて、仲間って感じ。
- ・残雪に対して、尊敬してる。すごい奴だって思ってる。
- ・「おれたち」ってあるから、自分も残雪みたいになろうって思ったんじゃないか。
- ・憧れているっていうか。もう倒す敵じゃない。

・「読むこと」において、文章を
読んでまとめた意見や感想を
共有し、自分の考えを広げて
いる。(思考・表現・判断) [発
言・記述]

・オクリンクを使い、クラス
みんなの考えが分かるよ
うにする。

主題ってなに？④

<仲間を想う気持ちが大切だ>
<仲間のために動く力> <仲間は大切>
・自分よりも強いハヤブサに自分からぶつかっていったから。
・自分が傷ついても、必死になって仲間を救おうとした残雪に感動したから。
・2年も会っていなかった大造じいさんのガンを、助けてくれたから。

<誰に対しても尊敬の気持ちを持つ>
・残雪を逃がした大造じいさんがかっこよかったから。

<困難な時でも闘う>
・ハヤブサに立ち向かう残雪のシーンが多く取り上げられていたから

<けんかするほど仲がいい>
・最初は残雪のことを捕まえようとしていた大造じいさんだったけど、最終的に助けてあげたから

・友達の考えを聞き、自分の考
えに取り入れたり、自分の考
えを広げたりしようとしてい
る。(主体的に学習に取り組む
態度) [発言・観察]

・積極的に意見や感想を共有し、学習の見通しをもって物語の魅力を伝え合おうとしている。(主体的に学習に取り組む態度) [発言・記述]

・自分の主題と友達主題を比較し、自分の考えを強化したり、考えが変化したり、「AとBを合わせてC」という考えだと思ふ。」といった統合をしやすい声かけをする。

これらの主題の中で一番筆者の思いを表しているのはどれ？⑤⑥⑦
⑧本時

仲間を大切に する 気持ち	誰に対しても 尊敬の気持ちをも つ	困難な時でも戦 う	けんかするほど 仲がいい	その他
---------------------	-------------------------	--------------	-----------------	-----

6. 本時について

- (1) 本時目標 : 物語の主題について話し合ったことを元に自分が考える主題をまとめることができる。
- (2) 本時展開

学習活動	主な支援・留意点 ◆評価 【観点】
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 15%;"> <p>(まとめ) ※自分の考える主題について書く。参考になった友だちの意見なども書く。</p> </div> <div style="width: 70%; text-align: center;"> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: 20%;"> <p>ひきょうなやり方をせずに堂々と戦う ⑤</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: 20%;"> <p>仲間の大切さ ④</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 20px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: 20%;"> <p>勇気を大切に ③</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: 20%;"> <p>人間と動物のつながり ②</p> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: 20%; margin-top: 20px; margin-left: auto;"> <p>狩人の苦労 ①</p> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 15%; text-align: center;"> <p>◎この物語の主題とは？</p> </div> </div> <div style="font-size: small; margin-left: 10px;">大造じいさんとがん</div>	<p>・授業の初めに音読をし、緊張をほぐす。</p> <p>・</p> <p>・</p> <p>☆意見発表をする際は分類をして板書していく。</p> <p>☆問い返しの発問「これらの中で作者の考える主題に一番近いのはどれだと思ふ？」→ 討論をする。</p> <p>☆まとめをする。</p> <p>◆まとめの際、友だちの意見を参考にして自分の考えが広がったり深まったりしている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p>

7. 実践を終えて

【ひびき合いについて】

本時の話し合いでは、めあての「この物語の主題とは？」について叙述的な根拠をもって話し合いを進めることができた。友達の見解に対して反応する子どもが多かった。普段「〇〇さんの意見に賛成です。」「〇〇さんの意見に付け出しです。」などといったつなぎ言葉を意識して使っていることが効果的だったと考える。一方、叙述的根拠は多く挙げたが、そこから具体的な意見を引き出すことができなかった。

【問い返しの発問について】

問い返しのタイミングはあったが、きっかけの言葉が浮かばず見逃してしまうことがあった。日ごろから発問を意識して子どもたちが深く考えるきっかけとなる言葉を探していきたい。

【成果と課題】

成果として、「大造じいさんとガン」を各グループで読み深め、主題に対する叙述的根拠を持つことができた。また、自分の考えをみんなに伝えることができていた。聴き手は「そういう考え方があるのか!」と自分と違う考え方に寄り添う姿がみられた。

今回の課題として、問題への切実さが薄かった。前回学習した物語「たずねびと」に比べ、「大造じいさんとガン」は意見が割れなかった。その結果「自分は絶対この主題が正解だと思うんだ!」といった熱い思いが生まれずに、「どれもいいんじゃない?」とあやふやな答えになってしまった。これからは子どもたちがより切実に考えられるよう問い返しの発問をより幅広く考えていきたい。

